

2018年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本排尿機能学会

正式名称

日本排尿機能学会認定医教育事業

医学教育事業の概要

尿流動態検査のハンズオンセミナー：尿流動態検査機器を用いた適正な検査方法・手技の教育
下部尿路機能障害教育ビデオの作成とホームページ上の配信：下部尿路の解剖・神経生理、病態、尿流動態検査、治療などについて作成し、学会ホームページ上で配信、など。

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、および看護師、理学療法士などのコメディカル。

対象となる医療関係者の想定人数：2,250人

医学教育事業の必要性 / 目的

下部尿路機能障害は多彩な症状により生活の質を阻害する。治療には生活指導、理学療法、薬物治療、手術治療などが含まれ、症状・病態・下部尿路機能の評価と患者毎の適切な治療法選択が必須である。さらに高齢者の排尿ケアは重要な課題である。最適な診療・ケアを提供するためには、専門的な知識と技術を有する専門家の養成が喫緊の課題である。日本排尿機能学会は2016年から下部尿路機能障害認定医制度を創設し、2年間に212名を認定している。認定医養成のための教育システムの整備が必須であることから本助成制度を活用して学会の認定医教育事業を創設し、コンテンツは学会員以外の泌尿器科、一般医、コメディカルへも広く開放する。

医学教育事業の計画・方法等

病院のみならず、在宅・老人施設等、医療・介護において必要とされる下部尿路機能障害診療の専門的知識及び診療・検査技術の普及並びにレベル向上のため教育システムを整備する。本教育事業は前述の日本排尿機能学会認定医養成のための教育に有用な事業となる。さらに、作成するビデオコンテンツについては、学会員以外の泌尿器科、一般医、コメディカルも視聴可能として、より広い教育・啓発に資するものとする。

方法：

1. 尿流動態検査などのハンズオンセミナー
 - ・回数：年2回（5月、10月）
 - ・受講者数：1回につき20名程度
 - ・尿流動態検査機器を用いたハンズオンセミナーによる適正な検査方法・手技の教育
 - ・尿流動態検査チャートを用いた尿流動態検査所見の解析に関する講習

*会員以外の参加者については、会員が夫々所属する大学 or 病院において、他科の医師・看護師長・事務長等を経由して募る。
2. 下部尿路機能障害教育ビデオの作成とホームページ上の配信
 - ・対象：日本排尿機能学会会員（1,650名）
 - ・ビデオコンテンツの作成と配信

下部尿路の解剖・神経生理、尿流動態検査、下部尿路機能障害の評価方法、前立腺肥大症・過活動膀胱・間質性膀胱炎の診療、神経因性膀胱の治療と尿路管理等のコンテンツを年3編作成し、日本排尿機能学会ホームページ上で会員専用ページとして配信。非会員に対しては半年後を目処に配信。
3. 教育事業は、日本排尿機能学会教育委員会が担当する。

医学教育事業の効果の測定方法

本教育事業の効果については、下記の方法で測定する。

1. 日本排尿機能学会会員約1,650名に対するアンケート調査
2. 認定医試験における成績の年次変化
3. 認定医申請者数・合格者数の推移
4. 認定医の施設におけるアウトカム評価研究の募集と研究結果の解析

医学教育事業の成果に対する情報共有について

本教育事業の成果については、日本排尿機能学会のホームページで開示するとともに、日本排尿機能学会認定医について、学会、総会、関連学会、市民公開講座等で紹介することで周知活動を行なう。